



民間放送教育協会レポート 2024

ご挨拶

公益財団法人 民間放送教育協会

会長 吉永 みち子

昭和42年に、放送を通じて教育の振興と機会均等に寄与するという志のもと、民間放送教育協会は産声を上げました。当時23%ほどだった大学進学率は、50年後には50%を越えました。その過程で、激しい受験競争は低年齢化し、教育はお金がかかるものになり、その結果、教育格差は広がり昨今は格差の固定化が心配され、ついに子どもの側から「親ガチャ」なる深い諦めの言葉が生まれ、少子化の流れは止まらないというのが民教協誕生57年後の現状です。

教育機会がすべての子どもに平等に与えられる社会は遠く、不登校の子どもは増加を辿り、半世紀前に目指した教育環境は達成されないばかりか、複雑に屈折しながらむしろ遠のいているような印象さえ受けます。さらにコロナ禍の3年で社会構造の変化が急速に進み、AIの教育現場への導入が、今後どんな影響を及ぼしていくのかもわかりません。

一方、放送と通信の融合により放送界も大きな変化に見舞われています。そんな混沌の中だからこそ、私たちは掲げた理念の原点に立ち返り、これまでの延長戦上の発展ではなく、教育とは何なのか、放送を通じて何ができるのかをもう一度真剣に考えなければならないのだと思います。

13年前の東日本大震災の折、釜石小学校の校歌が話題になりました。ひとりひとりが自分の足で立ち、自分の頭で考え、考えたらしっかり話し、お互いの違いを尊重しながら共に生きるという井上ひさしさんの手になる歌詞は、教育とは何なのかという問いに、かなり明確な示唆を与えてくれているように感じました。

「どうするか」を考えない人に、「どうなるか」は見えないというのは野村克也さんの言葉でした。この厳しい状況に、私たちはどう向き合っていくのかと様々な機会を通じて考えていかなければならない。その中にこそ、私たちは何をなすべきかというこれからの民教協の目指すべき道があるのだと思っています。



CONTENTS

2024 No.61

ご挨拶

民教協番組紹介

日本のチカラ	2
民教協スペシャル	5

番組選奨



「日本のチカラ」各賞授賞報告	8
文部科学大臣賞	
「わ紙とわたし ～和紙が見つないだ生きる場所～」高知放送	10
総務大臣賞	
「あのおおぞらをもう一度 ～津軽海峡に旗を振れ！～」青森放送	11
民教協会長賞	
「Zoo Reborn ～盛岡・飼育員奮闘記～」IBC 岩手放送	12
中小機構理事長賞	
「熱血社長と愛され営業マン ～会津塗のこれから～」福島テレビ	13
JA グループ賞	
「りんご農家、助けます！ ～青森発！若手チームの心意気～」青森放送	14
第一交通産業賞	
「俺たちのパラダイス ～楽しもうぜ！人生のステージ～」福井放送	15
奨励賞く 4 作品>	
「秘境の森は ゆうえんち ～村のトム・ソーヤーと子どもたち～」宮崎放送	16
「476 グラムの女の子 ～あおり、一年生になりました～」高知放送	16
「伊豆おはな ～家族をつくる介護タクシー～」静岡放送	17
「人生かけてやっています ～旅する情熱ゲートボール先生～」山梨放送	17
プロデューサー特別賞	
「完璧すぎる男 ～筋トレ・洗濯・F-15～」長崎放送	18
番組トピックス	18
「日本のチカラ」年間放送リスト（2023 年度）	19

「テレビのチカラ」大会報告

全国大会【徳島】	20
北海道・東北・関東・甲信越地区大会【山形】	21
中部・北陸・関西・中国地区大会【山口】	22
四国・九州・沖縄地区大会【長崎】	23

民教協の事業

小学校授業支援事業	24
読み聞かせ事業	25

民教協からのお知らせ	26
理事・監事・評議員名簿	27
2023 年度の主な活動	28

日本のチカラ

NIPPON NO CHIKARA

人々の想い、あふれる笑顔、紡がれる伝統…

「日本のチカラ」は心温まる物語を描く、教育ドキュメンタリー番組です。

- ◆ドキュメンタリーに関わる人は、真面目で思慮深く、秀でている…
そんなイメージがあるかもしれません。もちろんそういう側面もあります。
しかし長年この仕事に携わってきたなか
数々のヘンテコ制作者に出会ってきたのも真実です。
今回は民教協加盟局に跋扈する、愛すべき変人たちをご紹介します。
- ◆トップバッターは、味噌カツ県ニッポンのMさん。頭皮だけを高速で動かす特技は天下一品。
いつ電話してもテンパっているので「きょうもくすぶってますか？」が挨拶です。
何度もいっしょに飲んですが、終盤は確実に泥酔するのがデフォルト。
朝鮮半島情勢について話していたときのこと。突然「38度線の非武装地帯に
シラサギと鯉を飼っている人がいる」と熱く語りだしました。どんな人なの？と
聞くと意味不明なことを呟いたまま撃沈。真相は闇の中です。人権意識の高い
Mさんですが、会社の荒波にめげず、健康第一で頑張ってください。
- ◆続いて、かつお県のUさん。見た目がヤバイです。顔フェチの私はすぐに見抜きました。
言うなれば県警で悪さをしている類。要するにVシネマの刑事ものに出てくる
裏キャラ。「東京地検捜査部です」と電話するといつも「知らねえよ！」と返されます。
様々な過去があるようで、すべてを炙り出せていませんが、今後が楽しみです。
ちなみに彼の部下も濃いキャラぞろい。人身売買ブローカー顔、ギャンブル中毒顔、
暴走ヤンキー顔…テレビ局とは思えない人材で、ひとつの劇団が成立しております。
- ◆そして、野沢菜県のTさん。基本は超真面目で崇高な思想をお持ちの方ですが、
実は気が弱く優柔不断。以前、中国の南京大虐殺記念館へいっしょに旅行したとき
のこと。冗談で「日本語を話したら開かれるので絶対しゃべらないください」と警告。
別行動後、合流したときの泣きそうな顔は今でも忘れません。泊った現地ホテルでは
気が抜けたのか、バスロープで寛いでいました。相当シュールです。
声が小さくぼそぼそなため話し方教室に通ってまでは、と励ましています。

- ◆ほかに数多の変人がいます。常に的外れなドキュメンタリー論をぶちかます
マンゴー県のSさん。あまりに面白いので、彼の持論を隠し撮りしてプロモVを
作ってしまいました。郷ひろみのモノマネが秀逸な、
かぼす県のMさんには強敵がいます。ホテルイカ県の
Mさん。どちらもスベリ具合が秀逸。いつか決着を
つけていただきたい。ねぶた県のMさんもいい味
出しています。いつも親戚のおじさん風情で穏やか
なのに、大好物の日本酒が入ると危ないコトバが
ポンポン飛び出します。偉い方なのに（笑）。



マンゴー県のSさん



かぼす県のMさん



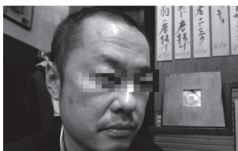
ホテルイカ県のMさん



ねぶた県のMさん



金箔県のKさん



金箔県のMさん



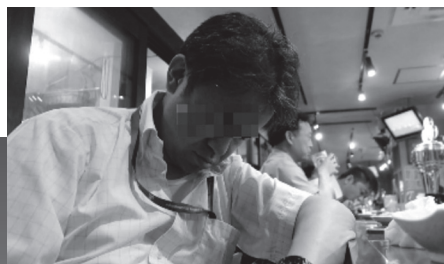
渦潮県のSさん



牛タン県のIさん

- ◆顔フェチにはたまらない、税関顔の男たちも忘れてはなりません。
（注：税関で必ずトランクを開けさせられる顔）
金箔県のKさん・Mさんはまさに、反社勢力のカシラと鉄砲玉。
渦潮県のSさん、前世は闇の歌舞伎役者に間違いありません。
牛タン県のIさんは言動・風体がまさに闇組織。
この4名に関しては、見ているだけで高揚感と絶望感を
一度に味わえる、貴重な存在となっております。

- ◆そんなこんなで、紹介しきれないのが残念ですが、こうした種々雑多な
制作者がいるからこそ、泥臭い人間絵巻が紡ぎ出されているわけです。
「日本のチカラ」も10年目を迎えます。皆さまの心に残る無骨な作品を
お届けできるよう、制作者一同 精進してまいります。
応援のほど よろしく願いいたします。



味噌カツ県のMさん



かつお県のUさん



野沢菜県のTさん

恐るべき愛しの制作者たち

総合プロデューサー 雪竹 弘一

日本のチカラ

NIPPON NO CHIKARA

2024年度 ラインナップ ※5月時点でのラインナップです。変更の可能性がございます。

放送回	東京地区放送日	サブタイトル	制作局
379	4月20日(土)	藤前干潟のガタレンジャー ～自然の魅力、伝えます～	メ～テレ
380	4月27日(土)	それでも歩き続ける ～右手と両脚を失ったあの日～	テレビ朝日
381	5月4日(土)	二人の力をあわせて ～夢は消防士～	静岡放送
382	5月11日(土)	伝えたい！ながのばあちゃん93歳	RKB毎日放送
383	5月18日(土)	ぶちかませ！小町 ～女子相撲のココロ 9年の軌跡～	山形放送
384	5月25日(土)	沖縄発！カラフル石鯛 ^{せっけん} ～彼女たちの前向きな生き方～	琉球放送
385	6月1日(土)	ニセコ発！“五感”の逸品 ～ユニーク家族の塩トマト～	北海道放送
386	6月8日(土)	朝市スケッチ ～岩手・盛岡 みんなの台所～ (仮)	IBC岩手放送
387	6月15日(土)	「カサイのかっちゃん」～町で一軒だけのスーパーマーケット～ (仮)	青森放送
388	6月22日(土)	くうちゃんとしげしさん (仮)	南海放送
389	6月29日(土)	カラフル ～ありのままのあなたで～ (仮)	大分放送

番組の詳しいラインナップや各局の放送時間は

民教協



#379



藤前干潟のガタレンジャー ～自然の魅力、伝えます～

名古屋港の一角に存在する藤前干潟は開発の手から逃れ、奇跡的に豊かな生態系を残しています。梅村幸稔さん(50)は、渡り鳥が飛来する様子や干潟のカニや魚などの生き物に魅せられて、高校生のころから干潟の案内人“ガタレンジャー”に。カニの帽子をかぶり「カニくん」の名前で子どもたちを干潟に誘います。

藤前干潟は梅村さんの人生そのもの。梅村さんはいま未来に干潟を残すため“ガタレンジャー”を受け継ぐ若者の育成を始めました。

メ～テレ 川村 真司(報道情報局 報道センター)

#380



それでも歩き続ける ～右手と両脚を失ったあの日～

山田千紘^{ちひろ}さんは11年前に電車で轢かれ、右手と両脚を失いました。奇跡的に一命を取り留めたものの絶望、『もう消えてしまいたい…。』。しかし、凄惨な事故から2年後には一人暮らしを始め、現在は日本航空関連会社に勤務。YouTubeや講演会では自らの経験を発信し、今、多くの人がその活動に勇気づけられています。

山田さんはなぜ、前を向くことができたのか。何気ない日常生活や活動を通して見えた「生きる希望」を描きます。

テレビ朝日 山本 翼(テレビ朝日映像株式会社)

#381



二人の力をあわせて ～夢は消防士～

火災や救急、救助など、緊急時に迅速に現場に駆けつける消防士。そんな消防士に憧れ、夢を叶えた双子の姉妹がいます。彼女たちは静岡県沼津市の駿東伊豆消防本部で働く久保田紗里奈さん（20）と妹の優里奈さん（20）です。かわいらしい二人ですが、根性は人一倍。訓練で自らの不甲斐なさに涙を流すこともありましたが、二人で支え合い乗り越えてきました。「40年後の定年まで消防の道を通ってみたい」と語る姉妹。夢を叶え新たな目標に向かって突き進む等身大の姿を伝えます。

静岡放送 杉村 直美（株式会社SBSメディアビジョン）

#382



伝えたい！ ながのばあちゃん93歳

最近、おばあちゃんの知恵に注目した取り組みが増えましたが、本作の主人公・長野路代さん（93）は33年前に、農作業のかたわら食品加工グループを立ち上げた6次産業の先駆者。商品開発に加え、祖母や母から教わった郷土食を若い世代に伝えています。最近就農希望者に、畝の使い方や野菜の種付けなどを指導。たくさん収穫して、地元野菜をブランド化する事が目標と言います。

人生100年時代を心豊かに生きる知恵を伝授してもらいます。

RKB毎日放送 石川 恵子（テレビ制作部 部長）

#383



ぶちかませ！小町 ～女子相撲のココロ 9年の軌跡～

秋葉小町ちゃんは6歳の時、世界一に輝いた兄に魅せられ相撲を始めた。得意技は立ち合い鋭いぶちかまし！でも試合では、はたかれて大号泣。86歳の師匠は「相撲で大事なのは心だ」と諭す。そして小4の時、ついに全国3位に輝き相撲にまい進するかに見えたが、コロナ禍で稽古相手は激減。孤独な相撲人生を強いられる。そんな時、日本女子相撲界のカリスマとの出会いが…。

小町ちゃんの心の成長を見つめた9年間の物語。

山形放送 佐藤 愛未（株式会社ブライド・トゥ）

#384



沖縄発！カラフル石鹸^{せっけん} ～彼女たちの前向きな生き方～

全国に25店舗以上を展開する沖縄生まれのスキンケアブランド「Sui Savon- 首里石鹸」。県産の原材料を含むカラフルな石鹸が魅力のひとつ。天然顔料でつくるマーブル模様は、どこか沖縄の情景を感じさせます。

首里石鹸誕生のきっかけとともに、様々な背景を持つ女性たちが、温かい仲間やユニークな制度に支えられ、前向きに働く姿を追いました。

琉球放送 與那嶺 啓（報道制作部）



最優秀企画賞は

『消える農民』 ～いま、農村で起きていること～ (仮) に決定

「民教協スペシャル」は、公益財団法人 民間放送教育協会に加盟している全国のテレビ局の制作者が、年に一回、渾身の企画を提出し、厳正な審査を経て最優秀企画賞に選ばれた企画を放送するものです。

1986年以来 38 回の放送を数え、これまで数々の賞を受賞しています。

第 39 回の企画募集 (2025 年 2 月放送予定) では加盟 15 局から 22 企画の応募があり、映画監督・作家の森達也さん、ノンフィクション作家の星野博美さん、映画監督の大島新さん 3 名の審査委員による厳正な企画審査が行われました。

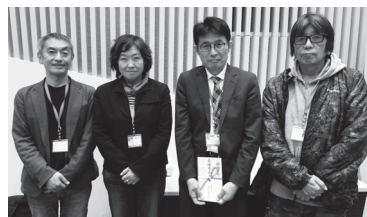
一次審査を通過したのは以下の 6 作品です

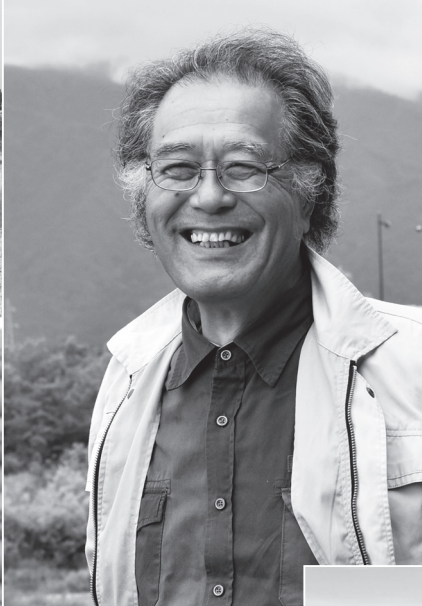
世紀の遺書～ BC 級戦犯 最期の声を集めて～ (仮)	RKB 毎日放送	大村 由紀子
『この命にも幸せを～菊田昇と特別養子縁組～』 (仮)	東北放送	野口 剛
「アボジは海の底に」 (仮)	山口放送	佐々木 聡
越境者たち～追憶と侵略の大地から～	信越放送	手塚 孝典
『消える農民』 ～いま、農村で起きていること～ (仮)	山形放送	三浦 重行
空と手のひら ある虐殺事件の 99 年後	メ～テレ	村瀬 史憲 岡本 祥一

この 6 作品について、約 3 分のプレゼン VTR とブラッシュアップされた企画書をもとに、2024 年 3 月 27 日、二次審査が行われました。森達也さん、星野博美さん、大島新さん 3 名との真剣な質疑応答の結果、山形放送・三浦重行さんの『消える農民』 ～いま、農村で起きていること～ (仮) が最優秀企画賞に選ばれました。

審査後の講評では、森達也さんから「日本の農業はどうあるべきといった大上段の作品ではなく、必死に生きている農民たちの息づかいが聞こえるようなものになるのでは」、星野博美さんから「できるだけ長い時間をご家族と過ごされて、いろんな風景を撮っていただきたい」、大島新さんから「取材対象者が魅力的。取材していく中で三浦さん自身の考えも変わっていく可能性がある」というコメントをいただきました。

今回の企画では、三浦さんが「いま農村で何が起きているのか？ 経済効率一辺倒ではない、“幸せな農業” につながるもうひとつの道」を描き出します。





第39回 民教協スペシャル 最優秀企画賞

2025 年 2 月放送予定

『消える農民』

～いま、農村で起きていること～（仮）

「農村から農民が消えようとしている」…。

山形県長井市の菅野芳秀さん（74）はこう話します。日本の農業を支えてきた家族農業の担い手たちが続々と田畑から去っています。農民はこの20年間で半減し、8割が60代以上です。

菅野さんが妻の佐智子さんと出会ったのは空港建設反対運動の渦中にあった千葉県成田の三里塚です。26歳で帰郷し、自称“百姓”になりました。「百姓から逃げ出さなくていい地域をつくる。堂々たる田舎をつくりたい」、そう思ったのです。

いま、農業の中心を担うのは長男の春平さん（41）。

ニワトリはケージではなく平飼いです。近くの山の腐葉土に含まれる微生物で餌を発酵させるのが菅野家のこだわり。卵は直接、消費者に届けています。心配なのが地区の田んぼの近未来。全体で600ヘクタールほどを誰が担うのか。40代以下の農家は10人しかいません。「いま8ヘクタール、20～30年後に60ヘクタールもできるわけがない。いまだってギリギリ。これから先、日本でコメが作れない地域がどんどん増えていく。人口減少よりもはるかに速いスピードで」と春平さんは話します。

仮のタイトルは「消える農民」ですが、菅野さんたちは消えるつもりはありません。あきらめるつもりも全然ありません。

菅野さんと仲間たち、家族農業の担い手たちの七転八倒を通じて、農の強さ、楽しさ、豊かさを表現したいと思っています。

山形放送 三浦 重行（報道制作局長）

君たちと見たもの

～全盲先生…魂の記録～

第38回 民教協スペシャル

2024年2月10日(土)・11日(日)・12日(月)放送



「生きていくには優しさが必要だということを伝えてもらいました」

「魂に正直に生きている先生らしい人間の強さと弱さを教えてくれた」

放送後に、多くの反響をいただきました。

両目の視力を失いながら教壇に立ち続けたヨシノリ先生。ありのままを見せて接し、生きるチカラをつける生徒たち。退職後に余命宣告を受け、病に伏せます。

「家庭人としては不合格だった」「家族とは別の女性に頼っている」

打ち明けられた私生活は、学校では見せない姿でした。そこに触れなくてもよかったのでは？という声もありました。

ヨシノリ先生は「これがあるままなので、どう受け止められても構わない」と覚悟を決め、取材に応じました。存命だったとしても、いつの日か教え子たちには隠さず語っていたとも思います。

どう表現するか最後まで悩みましたが、多面的な生き方を伝えたいというのが私たちの思い。

教え子たちの受け止めは個人差があると思います。

それでも「ヨシノリ先生が遺したもの」を感じる感想も多く寄せられました。

「思い出に残る授業をたくさんしていただき、言葉では表しきれない感謝の気持ちや、考えさせられることがたくさんありました」

「先生の生き方、考え方はしっかり子どもたちに受け継がれています。最高の先生でした」

全盲先生の記録を通して、生きることの尊さや重さが少しでも伝われば…。

今でもそう思い続けています。

ヨシノリ先生と出会えたことに心から感謝します。

最後に、貴重な番組制作の機会を与えていただき本当にありがとうございました。

テレビ朝日 猿渡 研二 (株式会社フレックス)



文部科学大臣賞

生涯学習も含め、もっとも価値があると思われる番組

わ紙とわたし ～和紙がつないだ生きる場所～

制作：高知放送

選出理由

伝統工芸、地方創生、自然との共生、家族の絆等、複数の大きな学びのテーマがバランス良くまとめられており、映像の美しさも文化的に高く評価できる。穏やかな人たち、穏やかな空間の中で和紙を使った美しいアート作品の数々。和紙と出会ったところには無彩色の世界だった作品が、色鮮やかに変わっていったところも感動的。贅沢な時間の流れを感じることができた。



総務大臣賞

地方創生に寄与する番組

あのおおぞらをもう一度 ～津軽海峡に旗を振れ！～

制作：青森放送

選出理由

主人公が周囲の人を巻き込んで楽しみながら地域や全国に取り組みを広げ、若者の共感を得て、まちおこしを継承していく様子が伝わる素晴らしい番組。地方創生という観点からも、まちおこしが世代を超えた息の長い取り組みとして継承されており、その実践例として大変参考になる。関係者の多様性、全国への広がりもリアルに描かれていた。



中小機構理事長賞

地域中小企業の活力を魅力的に紹介した優秀な番組

熱血社長と愛され営業マン ～会津塗のこれから～

制作：福島テレビ

選出理由

伝統を守りながら前に進み続ける従業員の様子が、しっかりと伝わる内容であった。地域の雇用を支える中小企業を率いる経営者の姿が、社長自身のコメントに加え、従業員からの声を通して丁寧に紹介されていた。いきいきと働く従業員の姿もリアルに描かれており、他の中小企業に元気を与える良作。総じて地域中小企業の活力が最も分かりやすく表現された作品であった。

日本のチカラ

NIPPON NO CHIKARA

2023年度 番組選奨

2024年3月13日、2023年度「日本のチカラ」番組推奨の選考会議が行われ、11作品が選出されました。

「総務大臣賞」では、総務省大臣官房広報室長・村上仰志さん、「中小機構理事長賞」では、中小機構理事長・豊永厚志さん、「JAグループ賞」では、JA全中・広報部 長谷川健一さん、新たに創設された「第一交通産業賞」では、第一交通産業・広報チームも事前選考に加わりました。

評価委員

奥山 睦（静岡大学大学院客員教授）

鈴木 美伸（上智大学非常勤講師）

星野 博美（ノンフィクション作家）

選考にあたっては「多くの人に見てもらえる生涯学習番組」の目標に沿って「日々の生き方、地域ならではのリアル」がどれだけ丹念に描かれていたか、未来への可能性を感じ取れたか、番組として純粋に楽しめたか、といった点も参考とされました。



民教協会賞

テレビ番組としての評価の高い番組

Zoo Reborn ～盛岡・飼育員奮闘記～

制作：IBC 岩手放送

選出理由

「動物福祉」という言葉に込められた「動物が精神的・肉体的に充分健康で、幸福であり、環境とも調和していること」という理念の根底には、Well-being や SDGs の視点を受け取ることができる。飼育員たちの創意工夫、飼育に対する次世代への継承も丁寧に描かれており、制作者の熱量を感じることができた。動物園内でのキャンプや夜の動物観察といった取り組みも好印象。



奨励賞（4作品）

価値のある番組、また今後に期待したい番組

秘境の森は ゆうえんち ～村のトム・ソーヤーと子どもたち～

制作：宮崎放送

選出理由

全編に流れる子どもたちのいきいきした姿にはっとする。椎葉の学びの体験を心に刻み、やがてはUターンしてくるのではないかとの期待を抱かせる。圧倒的な椎葉村の風景、森の遊具で遊ぶ子どもたちの嘘のない表情、尾前さんの情熱…息の長い地方創生活動がさわやかに描かれていた。

476グラムの女の子 ～あおり、一年生になりました～

制作：高知放送

選出理由

しみじみとする番組。あおりちゃんを取り巻く家族、共同体の人間関係の濃さに見守られた成長の記録が素直に響いてくる。お兄ちゃんの「強くなりたい」と、あおりちゃんの「救急隊員になりたい」という言葉に揺さぶられる。同じ悩みを抱える家族に勇気を与えた。本人の生命力にも感動。

伊豆おはな ～家族をつくる介護タクシー～

制作：静岡放送

選出理由

主人公夫婦の一つ一つの選択、試行錯誤がとても自然。外来者だからこそ気づける地域の課題と、そこに貢献したいという思い…解決に日々取り組んでいる夫婦の真摯な姿は、伊豆山地区を照らす希望の光だ。土石流災害で地域コミュニティの大切さを実感したことが、丹念に描かれていた。

人生かけてやっています ～旅する情熱ゲートボール先生～

制作：山梨放送

選出理由

人間味あふれる主人公の超人的かつ、情を大切に生きた生きざまが魅力的に描かれていた。なにより、主人公と関わった人がみんな笑顔になり、成長しているのが素晴らしい。生涯学習番組として特に初等教育関係者に、課外活動で子どもの人間性を養うあり方として学んでほしい。



JAグループ賞

持続可能な食と地域作りに寄与する番組

りんご農家、助けます！ ～青森発！若手チームの心意気～

制作：青森放送

選出理由

全国からも高く評価されている弘前りんごだが、枝の剪定が喫緊の課題となっている。剪定技術継承のため、地区ごとに剪定隊を結成、農家をサポートするとともに、デジタル技術を駆使したVR剪定学習支援システムを産学連携で構築するなど、剪定技術の継承に注力する姿は広くJAグループの使命や地域農業に果たすJAの役割を伝えるうえでたいへん価値のある作品であった。



第一交通産業賞

人の未来を見据え、地域発展に寄与する優秀な番組

俺たちのパラダイス ～楽しもうぜ！人生のステージ～

制作：福井放送

選出理由

若者から高齢者まで、さまざまな事情を抱えた人々を分け隔てなく受け入れるライブハウス。コミュニティの一員として取り残すことなく、全員を受け入れる姿勢が素晴らしい。地方都市の小さな町…その地域発展に寄与する優秀な番組である。未来を担う若者にも希望を与え、地元を好きになってもらうきっかけ作りにも貢献している。登場人物のいきいきとした表情も好印象。



プロデューサー特別賞

人の営みの機微を捉えた、心に残る優れた番組

完璧すぎる男 ～筋トレ・洗濯・F-15～

制作：長崎放送

選出理由

非の打ちどころがない男性にもかかわらず、ちょっとした綻びや弱さも丹念に描いた異色作品。定年後の生き方に共感した、勇気をもったなど視聴者からの反響も大きく、過去の辛い経験や両親との関わりも紡ぎ出しており、制作者の愛情がにじみ出た秀作。



文部科学大臣賞

制作

高知放送

報道制作部

廣瀬 心



わ紙とわたし ～和紙がつないだ生きる場所～

主人公・竹山美紀さん（35）に出会い、私の中の「紙」への印象が大きく変化しました。紙と聞いたときに思い浮かべるものが、普通紙だけではなくなったのです。長い年月をかけ職人が受け継いできた和紙を、作品を通して人々のもとへ届ける和紙作家。現代の暮らしに溶け込む美紀さんの作品は、和紙の可能性を広げ、これまで和紙に馴染みがなかった人にも届いています。

作家人生に悩んだ時に和紙に救われたという美紀さんは、和紙に出会ったことで夫の与志彰さん（38）と結婚し、高知県越知町へ移住。町の自然や人々の思いに触れることで作家としても、一人の女性としても前に進んでいる姿を追いかけてきました。その中で多く聞いたのは「美紀さんのためなら」という言葉です。その周囲を惹きつける人柄や雰囲気魅了されていたのは私も同じで、彼女自身や、彼女の作品が持つ空気感を表現することを心掛けて制作しました。そして番組タイトル「わ紙とわたし」は、美紀さんが移住前に行った個展名「わしとわたし」からいただいたもの。美紀さんが与志彰さんと出会い、全ての始まりとなった個展と、和紙が「和紙」としてではなく「紙のひとつ」として思い浮かべられるものになればという思いを込めています。

この番組に出会った方が、美紀さんの生き方を通して和紙を日常で思い浮かべてくれたら、そして彼女が大切にしている和紙や職人が、この先も続いていくきっかけのひとつになればうれしいです。



総務大臣賞

制作

青森放送

報道部

内山 匠



あのあおぞらをもう一度 ～津軽海峡に旗を振れ！～

受賞の連絡があった日、島さんはフェリーで函館に渡り台湾に飛び立ちました。町の守り神「天妃様」の像を台湾の総本山に里帰りさせ、ついでに台湾で大漁旗を振りながら大間町をPRしてくる、とのことでした。相も変わらず元気な島さんの出発をフェリー埠頭から町民が旗を振って見送っていました。

下北半島は青森県の中でも遠く、とかく産業面でも「後回し」にされがちな地域です。生活航路のフェリーは赤字が続き存続は綱渡りの状態です。取材中には島さんと一緒にカレーパンを開発していた町唯一のパン屋さんが閉店しました。パン屋さんで撮影していた映像も事情から放送使用できなくなりました。ラストカットのフェリーが急遽欠航するなど、うまくいかないことの方が多かった取材でした。しかし、こんな逆境すら島さんは幾つも経験してきて、それでも尚動き続けています。

「まちおこし」を始めたという話題はメディアとしても扱いやすく、始めたことだけでニュースになります。誰もが現状を何とかしたいという思いで動き出しますが、どれくらい継続できているでしょうか。島さんはインタビューで「まちおこしのDNA」と繰り返し返していました。町に生き、町を思う心を受け継いでいくことが「まちおこし」には欠かせないし、最後に残るものなのだと取材を通して感じました。

私もまた、島さんからその種火をもらったような気がします。



民教協会長賞



制作

IBC岩手放送

テレビ制作部

鹿野 真源

Zoo Reborn ～盛岡・飼育員奮闘記～

コッソ、コッソ。メスのアフリカゾウ、マオがおしっこする時を知らせる合図、牙で柱をたたく音です。この音を聞き、飼育員の竹花秀樹さんは採尿のためマオの所へ走っていくのでした。

去年春にリニューアルオープンを果たした、盛岡市動物公園ZOOMO。動物福祉の充実を重要なテーマにした園では、日々動物と人間のやり取りが繰り返されています。すべては、飼育動物が健康に生き生きと暮らすための取り組みです。その営みを撮影すればするほど、動物たちの賢さと豊かな表情に驚き、飼育員たちの動物への思いの深さに唸られたものです。

番組で特に焦点を当てたのは大型の野生動物と、その担当飼育員たち。ニホンツキノワグマやキリン、ライオンの健康状態を把握すべく、飼育員スタッフは工夫を凝らし、地道なトレーニングを重ねます。マオの合図も、その成果の一つです。

人間は、自身が住みやすいように都市を築き、しかしその中に動物園を作りました。人間は、動物園の中では動物第一に物事を考え、お世話に汗を流し、日々奮闘します。そう考えると、動物園は不思議な場所です。撮影者として飼育員の地道でひたむきな努力を伝えることに力を尽くしました。

動物福祉を柱にした園の挑戦は続いています。マオの人工授精への挑戦も現在進行形、さらに園内にフリースクールを開校するプロジェクトも発表されました。動物と人間の終わりのない物語の舞台、盛岡市動物公園ZOOMOに、ぜひおいでください。



中小機構理事長賞

制作

福島テレビ

報道編成制作局制作部

森合 岳



熱血社長と愛され営業マン ～会津塗のこれから～

福島県会津若松市の三義漆器店、3代目社長の曾根佳弘さん（59）は伝統の会津塗に新風を吹き込む熱血社長です。高価で普段使いしにくいなどの理由で、伝統の漆器が敬遠された時代もありましたが、曾根さんは環境の変化をむしろチャンスととらえ、伝統に縛られない挑戦を続けています。現代のライフスタイルに合わせて開発された新商品は人々の心をとらえ、会社も右肩上がりの成長を遂げています。

取材の中で、曾根さんは何度も私の心に強く残る言葉を発しています。社員の挑戦に向き合う社長自らのスタンスは明確です。「責任は俺 全部取るし。失敗した挑戦をみんなで褒めようよ。」と。「失敗を怒ると挑戦もなくなるんですよ。」若手の営業マンがプレッシャーに押しつぶされそうになったとき、そっとかけた言葉だそうです。そして取材中に、曾根さんからこんな言葉が投げ掛けられました。「挑戦がない会社っておもしろいですか」と。

社員を信頼すること、社員にやらせてみることに、社員の挑戦を大切にすること、理屈ではわかっていてもなかなかできないことだと思っています。

曾根さんは、社員の幸せを自らの幸せとして、社員の背中を押し続け、上ではなくちよつと前に立って社員73人をきょうも引っぱり張ります。そして、時代に必要とされるために、新しさを生み出す挑戦をやめることはありません。

取材を終えても、三義漆器店の伝統を前に進める挑戦から目を離せない日々が続きます。



JAグループ賞



制作

青森放送

テレビ制作部

杉山 正典

りんご農家、助けます！ ～青森発！若手チームの心意気～

全国のりんご生産の約20%を担うJAつがる弘前は、りんごの売上が大部分を占めています。しかし、高齢化や人手不足により剪定などの作業を自力で行うことが困難な農家が年々増加しており、課題となっています。この課題に立ち向かうためJAつがる弘前の有志が「請負剪定隊」を発足しました。剪定はりんご栽培の品質を左右する重要な作業であり、技術向上と農家支援を目的としたこの取り組みは、地域の若手農家たちを中心に続いています。年間を通じて膨大な生産工程を管理し、完遂させる必要がある農家の苦勞とそれを支える人達の姿を描きたいと思い、制作に至りました。

青森県出身の私でさえも、見たことがない作業がたくさんありました。地元のリんご生産に対する新たな認識を与える番組を制作できたのではないかと感じています。取材を通じて目の当たりにした農家の苦勞は、実際のごく一部に過ぎないかもしれませんが、その一端でも伝えられたならば幸いです。

視聴者からは、青森県出身者でさえも知らなかった農家の苦勞が描かれたことに対して評価をいただきました。地域で支え合いながら未来を切り開く力を伝えることができたことをうれしく思います。この番組が、農家が直面する多様な課題に光を当て、視聴者に新たな視点を提供し、地域の絆と協力の大切さを伝えたことで、一層の意義を持つことを願っています。



第一交通産業賞

制作

福井放送

報道制作局制作部

谷田 友望



俺たちのパラダイス ～楽しもうぜ！人生のステージ～

福井県の北部・坂井市春江町。田舎の小さなライブハウス「マロンパラダイス」が今回の舞台です。主人公は、店のオーナーの平野辰巳さんと、厨房担当の松嶋順子さん。そして2人を慕って店に集う常連客たち。歌って奏でて、食べて飲んで笑って…マロンパラダイスの仲間たちが繰り広げるパラダイスな日常、そして、人生のステージを前向きに生きていく人たちの絆を描いた物語です。

私が初めて取材に伺ったのは、2022年10月。ローカル番組の企画で、平野さんが開いたライブを撮影しに行きました。演奏される曲は、ベンチャーズ、寺内タケシとブルージーンズ、懐かしの昭和歌謡…「懐かし」と言っても、20代の私にとっては「初めまして」の曲ばかり。それでもステージに引き込まれ、今でもライブに通うほどになったのは、マロンパラダイスの仲間たちが持つ「生きるチカラ」に魅了されたからだと思います。

取材をしていく中で気が付いたのは、陽気な常連客たちも決して順風満帆な人生を歩んできた人ばかりではないということ。番組内で登場した心の病を抱えた女子高生、最愛の家族を亡くした人、大病を抱えながら店に通い続ける人など…集う人の数だけある人生がここで交差し、新しい夢や生涯の友人、唯一無二の楽しみがまた生まれていきました。

今回の番組制作から、人が集まることで満ちてくるパワーと、地域で生きることの素晴らしさを実感できました。1年間の長い取材の間、家族のように温かく迎えてくれたパラダイスな皆さまに心から感謝しています。



奨励賞

制作

営業局 都城支社長
副部長

坂元 伸一

宮崎放送



奨励賞

制作

アナウンス部 井手上 恵

高知放送



秘境の森はゆうえんち ～村のトム・ソーヤーと子どもたち～

宮崎県椎葉村は「日本三大秘境」の1つとされ、村の9割以上が山林、人口は約2500人。高齢化率は45%を超えています。村の子どもたちは、小学校を卒業すると親元を離れ、寮生活・下宿生活をおくりまわす。番組の主人公、尾前一日出さんは、「子どもこそ一番の宝」と語り、7年前から毎年1つ、様々な遊具を子どもたちと一緒に作ってきました。

取材は、「いつたどこからこんなアイデアが浮かんでくるのか？」という疑問を解消するところからスタートしました。最終的に尾前さんは、遊具を完璧には作りません。できるだけ「手間を省く」事が求められる時代。取材では、「手間をかける」ことの大切さ、そして人間の「生き方」について学ばせて頂きました。尾前さんの表情には、厳しい環境で生き抜いてきたからこそその「人へのやさしさ」がにじみ出ています。

取材は、秘境ゆえに移動がとにかく大変でした。現場まで車で4時間かかります。しかし、毎回頂く、手作りの野菜や漬物に本当に癒されました。これからも尾前さんを追っていきます。



476グラムの女の子 ～あおり、一年生になりました～

476グラムで生まれた、田中愛織ちゃん。

国内で生まれる体重1000グラム未満の超低出生体重児は、年間およそ3000人と言われ、臓器が未熟な状態で生まれるために様々なリスクや困り事が伴います。

しかし愛織ちゃんは、ゆつくりと着実に成長を重ねていきました。そして卒園式の前には「お父さん、お母さん、お兄ちゃんも、愛織のことを大切にしてくれる」と、「大切に育てられている」という自覚を伝えてくれました。あまりに素直な言葉に驚いていると、さらに一言「だって家族やもん」。この言葉を聞いたときに、「愛織ちゃんの成長の過程を多くの人に伝えたい」と強く思いました。

また、母親の真理子さんは「超低出生体重児を育てるうえで情報が乏しく、苦労をしたので、小さな赤ちゃんの子育てに悩んでいるご家庭に、愛織のことが少しでもヒントになったらうれしい」と話されていて、その想いが番組の土台になっています。素直な愛織ちゃんの言葉と、田中家の朗らかな明るさが、皆様の心に届きますように。



奨励賞

制作

報道制作局報道部

中西 結香

静岡放送



伊豆おはな

～家族をつくる介護タクシー～

「ここまで誰かのために行動できる人がいるんだ」それが2人に出会ったときの印象でした。熱海市の伊豆山地区で介護タクシー「伊豆おはな」を営む河瀬豊さん、愛美さん夫婦。「おはな」はハワイ語で「家族」。家族のように利用者に接したいという思いを込め、高齢者や体の不自由な人の送迎をしています。私が河瀬夫婦と出会ったのは、2021年。熱海市で発生した土石流災害の取材がきっかけでした。2人も被災者でしたが、それを忘れてしまうほど、利用者や住民のことを第一に考えて走り続けていました。利用者だけでなく、住民も「家族」。そんな河瀬夫婦の姿に惹かれ、気づけば2年間取材を続けていました。「外出は生きる希望」と話す河瀬夫婦。コロナ禍が明け、今、2人は旅行や観光のお手伝いにも力を入れています。自分の力では歩けないから…と外出を諦めている人がいたら、この番組を見て、河瀬夫婦の存在を知ってほしいです。体が不自由になっても、何歳になっても、外出する楽しみを持って過ごせる人が増えることを願っています。



奨励賞

制作

報道制作局
コンテンツ制作部

小林 邦照

山梨放送



人生かけてやっています

～旅する情熱ゲートボール先生～

「おらの心は水洗便所のようにきれいだべ！」故鳥山明先生の名作「ドラゴンボール」の中で、心が清らかな人だけが乗ることができる筋斗雲に牛魔王の娘チチが乗る時のセリフです。心がきれいで方言丸出しのチチ、今回の主人公「情熱ゲートボール先生」はまさにそんな方でした。情熱的で正義感が強く、自分より誰かのために動き、どこに行っても甲州弁の赤坂豊さん34歳。祖母に連れられ5歳でゲートボールを始めます。「自分が味わった最初の感動を大勢の人に伝えたい」。そのためなら全国どこでも無償で指導に出かけます。仕事に対しても依頼人が喜んでくれれば採算度外視。「お金は生きていく分あれば十分」。夢中で一度きりの人生を謳歌しています。コスバ・タイバが優先される令和の時代に、こんなにビュアで情に厚い若者がいます！ということをお伝えし、自らを考えるきっかけにしてもらえないかと思いました。放送後、赤坂さんのものには指導の依頼が全国各地から届いているとのことでした。



プロデューサー 特別賞

制作

報道制作部

宮路りか

長崎放送



完璧すぎる男

～筋トレ・洗濯・F-15～

主人公の朝長雅彦さんとは、小中高の同級生です。太陽のような笑顔の少年は、三十数年を経て渋いイケオジになっていました。その途中には過酷な戦闘機パイロットの時代があるのですが、残念ながら私はその時代を全く知りません。数年前に再会。パイロット時代の話やセカンドライフへの想いを知り、彼の魅力を伝えたいと思いました。放送後、日本全国からたくさんのメッセージが届いたそうです。エリートパイロットが56歳にして、バーをオープンする！その姿にエールをもらったという感想が多かったとか。

実はナレーションの林田繁和アナウンサーも高校の同級生です。同じ学び舎を巣立った3人で作った、セカンドライフの番組。あつという間にその時代に巻き戻れる友のありがたさを感じながら、ずいぶん長く生きてきたなあと、しみじみ思う今日この頃です。

そして近々、番組を見た銀座の凄腕美人ママが、朝長さんのバーを訪れるそうで、これからどうなるのか?!さすが完璧すぎる男!やるねえ!

番組トピックス

「日本のチカラ」、「民教協スペシャル」といった民教協の番組をベースにした各局のドキュメントが、本年度も数々の賞を受賞しました。



「ハマのドン “最後の闘い” —博打は許さない—」

制作：テレビ朝日

- ・US International Awards2023 入賞 (23年6月)
- ・JPPA AWARDS 2023 音響技術部門 グランプリ第23回 (23年6月)
- ・第97回キネマ旬報ベスト・テン 文化映画ベスト・テン 第3位 (24年2月)
- ・日本映画ペンクラブ 文化映画部門 2023年ベスト5 第3位 (24年2月)



「口福の献立 ～お腹と心を満たす嚙下食～」

制作：山形放送

- ・第65回科学技術映像祭 教育・教養部門優秀賞 (24年3月)



「牛と生きる ～長崎・鷹島…あったか家族～」

制作：長崎放送

- ・「SPIRIT OF JAPAN : Raising Calves and Family in Nagasaki」としてNHKワールドJAPANおよびjibtvウェブサイトで英語版を国際放送 (24年3月26日)

#	東京地区放送日	タイトル	制作局
337	4月22日(土)	幸せフラガール	山口放送
338	4月29日(土)	あのあおぞらをもう一度～津軽海峡に旗を振れ!～	青森放送
339	5月6日(土)	口福の献立～お腹と心を満たす嚙下食～	山形放送
340	5月13日(土)	横山家は1馬力～ようこそ!信州里山暮らし～	信越放送
341	5月20日(土)	“キラ星”たちの春～北の大地を巣立つ～	北海道放送
342	5月27日(土)	103歳 哲代さんのひとり暮らし	中国放送
343	6月3日(土)	秘境の森は ゆうえんち ～村のトム・ソーヤーと子どもたち～	宮崎放送
344	6月10日(土)	映画館がない街なんて～立ち上がった主婦～	朝日放送テレビ
345	6月17日(土)	令和の「よろづや」～町を元気に!奮闘記～	テレビ朝日
346	6月24日(土)	介護の救世主 ウチカ～モンゴルから来たチャンピオン～	山形放送
347	7月1日(土)	こども記者と名コンビ!～名山新聞 ほんわか物語～	南日本放送
348	7月8日(土)	476グラムの女の子～あおり、一年生になりました～	高知放送
349	7月15日(土)	がん患者に未来を～世界をリードする医師～	テレビ朝日
350	7月29日(土)	へそ太郎おじさん～幸せつなぐ 芸の達人～	南海放送
351	8月5日(土)	Zoo Reborn～盛岡・飼育員奮闘記～	IBC岩手放送
352	8月12日(土)	一玉入魂!熱き男たちの思い～大分・日田天領スイカ～	大分放送
353	8月19日(土)	3代目は手袋DJ～東かがわ市を手袋職人の聖地に～	西日本放送
354	9月2日(土)	人形師 翔る～父と子の追い山笠～	RKB毎日放送
355	9月9日(土)	異色トリオ大作戦～新潟・ナス王国復活へ～	新潟放送
356	9月16日(土)	つなぐ、ともす～秋田竿燈 伝統の技～	秋田放送
357	9月23日(土)	伊豆おはな～家族をつくる介護タクシー～	静岡放送
358	9月30日(土)	新鮮野菜こーたり～な!～知らんともったいない“大阪もん”～	朝日放送テレビ
359	10月7日(土)	亡き母への思い～人気塾講師と明石焼き～	琉球放送
360	10月14日(土)	墨の芸術家、漁師になる	北陸放送
361	10月21日(土)	今年もスーツで米作り!～クールに楽しく!自分流農業	山形放送
362	10月28日(土)	亡き母と歩む 三姉妹食堂	北日本放送
363	11月4日(土)	がんばれ、俺!～なす産地を守るヒーロー～	四国放送
364	11月11日(土)	涼太と親父の海日記～気仙沼発!若き力キ漁師～	東北放送
365	11月18日(土)	美容師からコメ農家へ!～島根発!転職組の熱き日々～	日本海テレビ
366	11月25日(土)	輝く女性保健師～鹿児島発!離島巡回健診～	南日本放送
367	12月2日(土)	楽しく食べる～おばねちゃんの食卓～	沖縄テレビ
368	12月9日(土)	てまひまかける 家づくり人づくり	熊本放送
369	12月16日(土)	100年魅せる米づくり～町に元気な農業を!～	メ～テレ
370	12月23日(土)	心、動かすAI	静岡放送
371	1月6日(土)	完璧すぎる男～筋トレ・洗濯・F-15～	長崎放送
372	1月13日(土)	俺たちのパラダイス～楽しもうぜ!人生のステージ～	福井放送
373	1月20日(土)	わ紙とわたし～和紙がつないだ生きる場所～	高知放送
374	1月27日(土)	りんご農家、助けます!～青森発!若手チームの心意気～	青森放送
375	2月3日(土)	熱血社長と愛され営業マン～会津塗のこれから～	福島テレビ
376	2月10日(土)	人生かけてやっています～旅する情熱ゲートボール先生～	山梨放送
377	2月17日(土)	新しい漁師のリーダーズ	山陰放送
378	2月24日(土)	つなぐ!酪農愛 “丘のまち” 美瑛に生きる	北海道放送

「日本のチカラ」は以下の地上波、BSの各放送局でもご覧いただけます。

- BS 朝日 毎週金曜日 5:25～
- 群馬テレビ 毎週土曜日13:30～(日曜日再放送)
- TOKYO MX 毎週月曜日 9:30～ ※番組編成は変更する場合がございますのでご了承願います。

第59回 テレビのチカラ全国大会 2023徳島

2023年11月18日（土） あわぎんホール
主管局：四国放送



全国大会

大会テーマ



私は、わたしが創る
～徳島発 未来への挑戦～



38年ぶりの徳島大会では「社会や地方が抱える課題と向き合い、自分で未来を切り拓いていこう」という意味を込め、「私は、わたしが創る ～徳島発 未来への挑戦～」というテーマを掲げました。

徳島県は過去に14年連続で「糖尿病死亡率全国ワースト1位」になるなど、成人病の課題先進県です。しかし成人病は食生活が変わった現代においては、日本全体の問題かもしれません。基調講演では料理研究家の浜内千波さんに“食品ロス＝栄養ロス”をキーワードに、「食材ごとの栄養素を知り大切にすることが、健康や食品ロスの減少に繋がる」「食べることに投資をしましょう」と話していただきました。

続くパネルディスカッションでは、近い将来の食糧危機対策の1つとして国連食糧農業機関（FAO）も推奨する「昆虫食」の研究・商品化をする大学発のスタートアップ企業代表、全国で初めてゼロ・ウェイスト宣言した徳島県上勝町で環境型複合施設を運営するZ世代のCEOなど、徳島から全国に誇るプロジェクトを発信する4名の方が登壇。地方から発信するメリットやデメリットについて議論しました。

徳島では昨年、19年ぶりの新設高専学校が開校しました。起業家育成を目標にしたこの学校は、企業版ふるさと納税で集まった資金を運用し授業料無償化を果たすなど、新しい取り組みが話題になっています。パネリストの1人で、その学校の事務局長の方が「挑戦の先には成功か学びしかない」と発言されたのが印象的でした。1cmでも1mmでも、今より前に進むために何ができるのか？先行きが不透明だからこそ、今の自分に何ができるのか？大会を視聴された方に、少しでもメッセージが伝わっていればうれしいです。

営業局 営業開発部 片山 恒志



プログラム

司会

宗我部 英久（四国放送アナウンサー）
豊成 春子（四国放送アナウンサー）

オープニングアクト

「交響曲第9番の合唱」徳島少年少女合唱団

第1部 基調講演

「食で自分のカラダを守り、社会へつなげる」

講師

浜内 千波（料理研究家・食プロデューサー）

アトラクション 「阿波踊り演舞」 娯茶平

第2部 パネルディスカッション

「徳島発 未来へ～ゼロからの挑戦、ゼロへの挑戦～」

パネリスト

渡邊 崇人（株式会社グリラス 代表取締役 CEO 兼 CTO）
松坂 孝紀（神山まるごと高専 事務局長）
大塚 桃奈（上勝町ゼロ・ウェイストセンター WHY）
丸岡 いずみ（フリーキャスター）

2023年10月14日（土） 山形テルサ

主管局：山形放送



地区大会

山形大会

大会テーマ



デザインを地域のチカラに！



山形らしいテーマっていったい何？そのヒントは担当していた山形県の広報番組の取材にありました。一般にモノの形や色をイメージする“デザイン”。その力が企業の課題を解決したり可能性を広げていることがわかったのです。さらに調べてみると、デザインは工業分野にとどまらず、仕組みをつくったり、これまでのルールを変えるとといった形で運用されているのです。その主役の一つが、山形市の東北芸術工科大学。学生たちが問題解決の手段としてデザインを学び、地域に繰り出して街を元気にしているのです。デザインは地域のチカラになっている！山形ならではのテーマが決まりました。

ゲストにはデザインのチカラの学びを先導する東北芸術工科大学学長の中山ダイスケさん、地域でデザインのチカラを駆使した街づくりを实践する山中大介さん、画家で壁画師の小林舞香さんを迎えました。3人とも、生まれは山形県外。移住してきたり、働く場所が山形という人たちです。

ふた月遅れの秋の花笠踊りと小林さんによる壁画制作のパフォーマンスで華やかに幕を開けた大会、基調講演やパネルディスカッションでデザインのチカラが何なのかがしだいに増えてきました。「物のデザイン」から今は「事のデザイン」に変化している」「世の中を便利にしたり快適にするのがデザイン」「やがて政治もデザインされていく」「デザインは弱点が大好物！」興味深い話が次々と語られました。

“別解”に“逆張り”、“悪乗り”、こうした発想や行動こそがデザインのチカラ。山形県のように立ち遅れている地域にこそ可能性があり、何もないのは逆にチャンス。デザインのチカラが地方の活性化に役立てれば幸いです。

制作部 荒木 重弥



プログラム

▶司会・コーディネーター
青山 友紀（山形放送アナウンサー）

●オープニングアクト
「花笠踊りと絵画制作のコラボレーション」
山形大学花笠サークル「四面楚歌」
小林 舞香（画家・壁画師）

第1部 基調講演

「デザインのチカラ」
中山 ダイスケ（東北芸術工科大学 学長）

第2部 パネルディスカッション

「デザインを地域のチカラに！」

▶パネリスト
中山 ダイスケ（東北芸術工科大学 学長）
山中 大介（ヤマガタデザイン株式会社 代表取締役）
小林 舞香（画家・壁画師）

テレビのチカラ 中部・北陸・関西・中国地区大会 2023山口

2023年9月30日（土） KDDI維新ホール

主管局：山口放送



地区大会
山口大会

大会テーマ



掘り起こそう！
地域のチカラ 人のチカラ



全国で過疎・高齢化、人口減少が大きな課題となっていますが、山口県の人口は2023年8月、初めて130万人を割り込みました。危機感を抱く中、山口県をいかに盛り上げていくべきか、「掘り起こそう！地域のチカラ 人のチカラ」をテーマに大会が幕を開けました。会場には、約850人が訪れ大盛況となりました。

オープニングアクトでは、次代を担う県立周防大島高校の「アロハ・フラ島高」の生徒たちがフラの華やかなパフォーマンスを披露。第1部の基調講演では、株式会社 GHIBLI の坪内知佳さんが講師を務めました。坪内さんは、2018年、弊社が制作した「日本のチカラ」に出演しています。また、2022年に放送されたドラマ「ファーストペンギン！」のモデルにもなっていて、「ファーストペンギンの勇気 ～荒くれ漁師を束ねるチカラ～」をテーマに、全く縁がなかった漁業の世界に飛び込み、漁師を束ねて水揚げから加工、販売までを行う6次産業化にこぎつけた自身の経験を笑顔で語りかけました。

続くパネルディスカッションでは、坪内さんをはじめ5人のパネリストが楽しく意見を交わしました。坪内さんから予定調和にならない議論にしようとの提案があり、コーディネーターの高橋アナウンサーが坪内さんと臨機応変にかけあいをしながら展開しました。本番では、地域活性化や人材の育成について、パネリストそれぞれの取り組みも紹介しながら掘り下げた意見交換が繰り広げられ、会場を沸かせました。最後に坪内さんが「私たち一人一人が山口県を形成しているという自覚を持つことが大切」と当事者意識の重要性を語ったことが印象的でした。

編成業務局 テレビ編成部 竹内 寛



プログラム

▶司会

成田 弘毅（山口放送アナウンサー）
上田 奈央（山口放送アナウンサー）

●オープニングアクト

「フラ・パフォーマンス」

山口県立周防大島高校「アロハ・フラ島高」

第1部 基調講演

「ファーストペンギンの勇気

～荒くれ漁師を束ねるチカラ～」

坪内 知佳（株式会社 GHIBLI 代表取締役）

第2部 パネルディスカッション

「掘り起こそう！地域のチカラ 人のチカラ」

▶パネリスト

坪内 知佳（株式会社 GHIBLI 代表取締役）
大田 真一郎（山口県立周防大島高等学校 校長）
松嶋 匡史（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
西 友理（株式会社 ACT SAIKYO 代表取締役）
日下 まりあ（株式会社リージョナルマネジメント）

▶コーディネーター

高橋 裕（山口放送アナウンサー）

テレビのチカラ 四国・九州・沖縄地区大会 2023長崎

2023年10月28日（土） 出島メッセ長崎

主管局：長崎放送



地区大会
長崎大会

大会テーマ

若者が輝ける舞台へ
今こそ地方のチカラ



西九州新幹線の開業を契機に、長崎駅周辺の再開発が進み、「100年に1度の変革期」と言われる長崎の町。一方で、若い世代を中心とした人口流出は、深刻な課題となっています。

若者にとって、魅力的な町とは…？再開発地区にある出島メッセに、長崎をこよなく愛するさだまさしさんと、若き起業家たちに集まっていただきました。

第1部の基調講演で、さださんは軍事スパイだった祖父のエピソードなど自身のルーツを紐解くとともに、開港以来40年で培われた長崎独自の文化に触れ「長崎っ子が長崎を知らない」「長崎の発展を経済の都合で話す、これが最大の欠点」…ユーモアたっぷり、しかし大真面目に長崎弁で語りかけました。

第2部は、ITを活用し地方で働く可能性を広げる大瀬良さん、障がい児のキャリア教育に情熱を傾ける脇さん、斜面地に住み長崎の課題と向き合う岩本さん、3人の若手起業家とのディスカッション。ネットで同世代の仲間と繋がりながら長崎を発展させようとする3人に、さださんは「元気になるね！」と期待しつつ、「熱量が違うから」と対面でのコミュニケーションの大切さを訴える場面も。親子ほど年の差があるディスカッションは、長崎親切という言葉があるほど世話好きな「長崎人」論議でも大いに盛り上がり、最後にさださんが「この若い機動力に、老人やもっと若い世代も乗っかって同じ方向を向いて走れば、大きく町が動き出す！」と全世代にエールを贈って、幕を下ろしました。

人口減少を嘆く前に、地元の歴史や文化を知ることでもシビック・プライドの醸成を。ローカル局としても、テレビのチカラで長崎の魅力を掘り起こし発信する大切さを改めて感じる大会となりました。

業務局長 塚田 恵子



プログラム

▶司会
豊崎 なつき（長崎放送アナウンサー）

●オープニングアクト
「変面」
小林 奈々・妃那（日中川劇変面協会・九関）

第1部 講演
「ふるさとのチカラ、長崎のチカラ」
さだまさし（シンガーソングライター・小説家）

第2部 パネルディスカッション
「Rebuild -地域課題×若いチカラ-」
▶パネリスト
さだまさし（シンガーソングライター・小説家）
大瀬良 亮（株式会社遊行 代表取締役 CEO）
脇 葵依（株式会社 O-lys 代表取締役）
岩本 論（つくるのわデザイン 代表）
▶コーディネーター
住吉 光（長崎放送アナウンサー）



**必要な情報活用へ
駿台甲府小で授業**
山梨放送
山梨放送は14日、駿台甲府小で、必要な情報を選んで活用していく「メディアリテラシー」の出張授業をした。山梨放送が加盟する民間放送教育協会が実施する「小学校授業支援事業」の一環で、荻野弘樹報道制作局制作統括が講師を務めた。5年1組の36人が、DVDでニュースができるまでの流れや報道に必要な要素などを学習。タブレット端末を使って、映像を撮影する際の基本的な動きを学んだ。班ごとに、同校を題材にしたニュースを考えるワークシートも配られた。



山梨放送

山梨日日新聞 2023年11月15日付20面（地域）より

クシヨップも体験した。鮎川雄一さんは「映像は見やすいようにいろいろ考えて撮られていると分かった」と感想。松本智之さんは「ニュースは情報の正確さを大事にしている」と話していた。同校での授業は1日にも行われ、〈杉原みき〉

文部科学省後援

小学校授業支援事業

小学校授業支援事業は、「未来を担う子どもたちの育成事業」として2009年度にスタートしたもので、2011年度からは文部科学省後援の事業となっています。加盟各社が地域の小学校の校長・担当教員の協力を得て、授業のカリキュラムとして組み込む中で行う子どもたちに向けたメディアリテラシー教育を行うものです。

新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年度から3年間実施できませんでしたが、2023年度より再開させていただきました。新たに民間放送教育協会が制作した動画「ニュースができるまで」を小学生に視聴してもらい、その後に記者やアナウンサーが授業を展開する形式や、テレビ局見学も同時に行う形式など、加盟各局が効果的な授業を模索しながら実施いたしました。



新潟放送



南海放送



大分放送



南日本放送

2023年度「小学校授業支援事業」実施局（10局）

北海道放送

IBC 岩手放送

新潟放送

信越放送

山梨放送

山口放送

南海放送

高知放送

大分放送

南日本放送



北海道放送

4年ぶりに復活した民教協の小学校授業支援事業は、小5の社会の単元の内容をより深く知ってもらう動画を視聴するスタイルでの実施となりました。札幌市立美音保小と道教育大附属札幌小で実施した出張授業では、ニュースができるまでの動画を視聴した後、講師役の牧野アナウンス部長による体験談を通して、情報の正確性を確認する難しさや人権への配慮など報道現場の生の姿や苦勞を組ができるまでやアナウンス体験など、放送をより身近に感じてもらえるような内容で授業を行いました。特に実際に取材で使っているシールドカメラには、歓声をあげながら目を輝かせて持ち上げたり、担いだりしていました。終了後のアンケートでも9割以上が「楽しかった」と答えており、あらためて放送のリアルを伝えることの大切さを学びました。経営企画局総務部 広報担当

**カメラにくぎ付け！
小学校2校で出張授業**

2023年
12月8日（金）
12月13日（水）

「ニュースができるまで」の動画を視聴する美音保小学校の児童たち

北海道放送 社報2024年1月号より



新潟放送



信越放送



福井放送



朝日放送テレビ



四国放送

文部科学省後援

読み聞かせ事業

公益財団法人 民間放送教育協会では、2011 年度より「子ども未来プロジェクト」の一事業として、加盟する放送局の協力を得て、「読み聞かせ事業」を実施しております。

この事業は、2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災により、被災地のみならず、その他の地域の子どもたちも緊張や不安が高まり、心に傷を受けていたことをきっかけに、放送事業者として心のケアにどう取り組んでいけるのかを加盟各局で検討してスタートしたものです。今年度も、文部科学省後援の事業となっております。

放送局の持っているリソースを生かしアナウンサー等による本や絵本の対面での読み聞かせはもちろん、コロナ禍以降はオンラインを活用したりリモート読み聞かせ、読み聞かせ番組の Web 配信など、加盟各局が工夫を凝らすことで継続しております。2023 年度は過去最大の実施局数となり、27 局が全 142 回の「読み聞かせ事業」を実施いたしました。

今後も、放送事業者としての特性を生かし、多くの地域で「読み聞かせ事業」を継続していきたいと考えています。

2023年度 「読み聞かせ事業」実施局（27局）

北海道放送	青森放送	IBC 岩手放送	秋田放送	山形放送	福島テレビ
新潟放送	信越放送	山梨放送	北日本放送	北陸放送	福井放送
静岡放送	朝日放送テレビ	日本海テレビジョン放送	山口放送	西日本放送	
四国放送	南海放送	高知放送	長崎放送	大分放送	熊本放送
宮崎放送	南日本放送	沖縄テレビ放送	琉球放送		



南海放送



高知放送



宮崎放送



琉球放送



民教協からのお知らせ



学校教育・生涯学習に 番組DVDの貸し出しをご活用ください。

民間放送教育協会では、番組を使って授業を行う場合に番組DVDの貸し出しを行っております。
2023年度は7作品が合計13回、貸し出されました。

貸出件数	13回		
視聴人数	456人		
貸出作品	7作品	日本のチカラ	4作品
		民教協スペシャル	3作品

複数回の貸し出しがあった人気作品は以下の通りです。

貸し出し回数	作品名	目的(抜粋)
4回	第37回民教協スペシャル 「私の中のかけらたち ～虐待を生きる22歳～」	・保育士養成課程科目の「社会的養護Ⅰ」の授業にて、被虐待児の心の世界の一端を、当事者の生の声から感じ取る授業を展開するため。 ・養護教員養成課程の4年生課程「教職実践演習」内で視聴。 ・養護教諭、保健師、看護師になる4年生学校保健論という授業で、視聴、ディスカッションをしたい。家庭に養護教諭、保健師がどこまで介入できるか、それぞれの立場で何ができるか、考えたい。 ・養護教諭をめざす学生の教育実習後の教職実践演習で、養護教諭に求められる力をより深く定着したい。児童・生徒理解の重要性を認識し、児童生徒の心に寄り添う指導の在り方を考えるという指導計画を作成したい。
3回	第26回 民教協スペシャル 「生きることを選んで」	・神経難病の患者さんを対象理解を目的とした臨地実習の導入に使用。 ・「障害者福祉入門Ⅰ」講義内において、肢体不自由の理解を促進するため視聴予定。 ・地域・在宅看護論の授業において学生のALS患者に対する理解を深めるため。
2回	第35回 民教協スペシャル 「おひさま家族 ～りんくん一家 10年の記録～」	・高齢者、地域の居場所作りサロンで視聴。 ・中学校の道徳の授業で使用。



小・中学校での道徳の授業や修学旅行の事前学習、大学や高等学校、看護学校における講義内での視聴など、学校や教育・研究機関、福祉団体などの非営利の団体の皆様に、番組をご活用いただいております。

貸し出し作品は、

「日本のチカラ」・「日本！食紀行」・「学びEye！」・「発見！人間力」・「民教協スペシャル」です。

貸し出し方法、番組の内容は当協会ホームページ「番組貸し出し」をご覧ください。

(注) 貸し出しは著作権の範囲内で行っています。

2024 年度 公益財団法人 民間放送教育協会 理事・監事・評議員名簿

2024 年 3 月 29 日現在（敬称略）

理 事（18 名）

会 長	吉永 みち子	ノンフィクション作家
副 会 長	中村 耕治（株）南日本放送	取締役相談役
理 事 長	武田 徹（株）テレビ朝日	取締役副会長
常 務 理 事	小野瀬 雅久（株）テレビ朝日	常務取締役
理 事	石渡 弥（株）電通	ラジオテレビ局長
	板垣 正義 山形放送（株）	代表取締役社長
	猪俣 知三（株）大分放送	代表取締役社長
	大西 康司 南海放送（株）	代表取締役社長
	鎌田 英樹（株）IBC 岩手放送	代表取締役会長
	坂口 吉平（株）山陰放送	代表取締役社長
	坂口 洋一朗（株）熊本放送	代表取締役社長
	佐竹 慶生（株）高知放送	代表取締役会長
	相坂 勇人（株）博報堂 DYMP	取締役常務執行役員
	高田 坦史（一社）日本中小企業経営支援専門家協会	代表理事
	中村 一彦 琉球放送（株）	代表取締役社長
	野口 英一（株）山梨放送	代表取締役社長
	山本 晋也 朝日放送テレビ（株）	代表取締役社長
	横山 淳 福島テレビ（株）	代表取締役社長

監 事（2 名）

島谷 浩司	北日本放送（株）	代表取締役社長
池田 慶介	（株）テレビ朝日	ネットワーク局長

評議員（17 名）

東 晋	長崎放送（株）	代表取締役社長
音 好宏	上智大学	教授
狩野 隆也	名古屋テレビ放送（株）	代表取締役社長
勝田 直樹	北海道放送（株）	代表取締役社長
境 真理子		ジャーナリスト
坂元 章	お茶の水女子大学	理事・副学長
佐藤 隆夫	（株）新潟放送	代表取締役会長
立田 聡	（株）秋田放送	代表取締役社長
豊永 厚志	（独法）中小企業基盤整備機構	理事長
中村 卓朗	西日本放送（株）	代表取締役社長
丹羽 美之	東京大学大学院	教授
林 延吉	山口放送（株）	代表取締役社長
星野 博美		ノンフィクション作家
堀木 卓也	（一社）日本民間放送連盟	専務理事
宮迫 良己	（株）中国放送	代表取締役社長
森 達也		映画監督
若松 仁嗣	（一社）全国農業協同組合中央会	常務理事

2023 年度 民間放送教育協会の主な活動

2023 年 令和 5 年	4 月	3 日	第 38 回民教協スペシャル 二次審査会議
		21 日	第 64 回科学技術映像祭 表彰式（教育・教養部門 優秀賞）
		22 日	2023 年度「日本のチカラ」放送開始
		24 日	日本のチカラ 2023 年度第 3 回ブラッシュアップ会議（オンライン／テレビ朝日・山形放送・南日本放送・高知放送）
	5 月	22 日	第 130 回理事会
		29 日	日本のチカラ 2023 年度第 4 回ブラッシュアップ会議（オンライン／テレビ朝日・南海放送・IBC 岩手放送・大分放送）
	6 月	6 日	第 118 回評議員会
			第 131 回理事会（書面決議）
		26 日	日本のチカラ 2023 年度第 5 回ブラッシュアップ会議（オンライン／西日本放送・RKB 毎日放送・新潟放送・秋田放送）
	7 月	31 日	日本のチカラ 2023 年度第 6 回ブラッシュアップ会議（オンライン／静岡放送・朝日放送テレビ・琉球放送・北陸放送）
	9 月	4 日	日本のチカラ 2023 年度第 7 回ブラッシュアップ会議（オンライン／山形放送・北日本放送・四国放送・東北放送）
		30 日	「テレビのチカラ中部・北陸・関西・中国地区大会 2023 山口」（主管：山口放送）
	10 月	2 日	日本のチカラ 2023 年度第 8 回ブラッシュアップ会議（オンライン／日本海テレビ・南日本放送・沖縄テレビ・熊本放送）
		5 日	日本のチカラ 2023 年度番組選奨 上期評価会議
		14 日	「テレビのチカラ北海道・東北・関東・甲信越地区大会 2023 山形」（主管：山形放送）
		28 日	「テレビのチカラ四国・九州・沖縄地区大会 2023 長崎」（主管：長崎放送）
	11 月	6 日	日本のチカラ 2023 年度第 9 回ブラッシュアップ会議（オンライン／メ〜テレ・静岡放送・長崎放送・福井放送）
		17 日	2022 年度「日本のチカラ」番組選奨 表彰式
		18 日	「第 59 回テレビのチカラ全国大会 2023 徳島」（主管：四国放送）
	12 月	4 日	日本のチカラ 2023 年度第 10 回ブラッシュアップ会議（オンライン／高知放送・青森放送・福島テレビ・山梨放送・山陰放送）
		11 日	制作責任者総会

2024 年 令和 6 年	1 月	15 日	第 38 回民教協スペシャル 完成試写会
		18 日	東京支社連絡担当者会議
	2 月	9 日	東京支社長会議
		10 日	第 38 回民教協スペシャル「君たちと見たもの～全盲先生…魂の記録～」（制作：テレビ朝日）放送
		20 日	第 39 回民教協スペシャル 一次審査会議
		21 日	第 132 回理事会
		29 日	日本のチカラ 2023 年度番組選奨 下期評価会議
	3 月	4 日	日本のチカラ 2024 年度第 1 回ブラッシュアップ会議（メ〜テレ・テレビ朝日・静岡放送・RKB 毎日放送・山形放送）
		11 日	第 119 回評議員会
		13 日	日本のチカラ 2023 年度番組選奨 選考会議
		27 日	第 39 回民教協スペシャル 二次審査会議

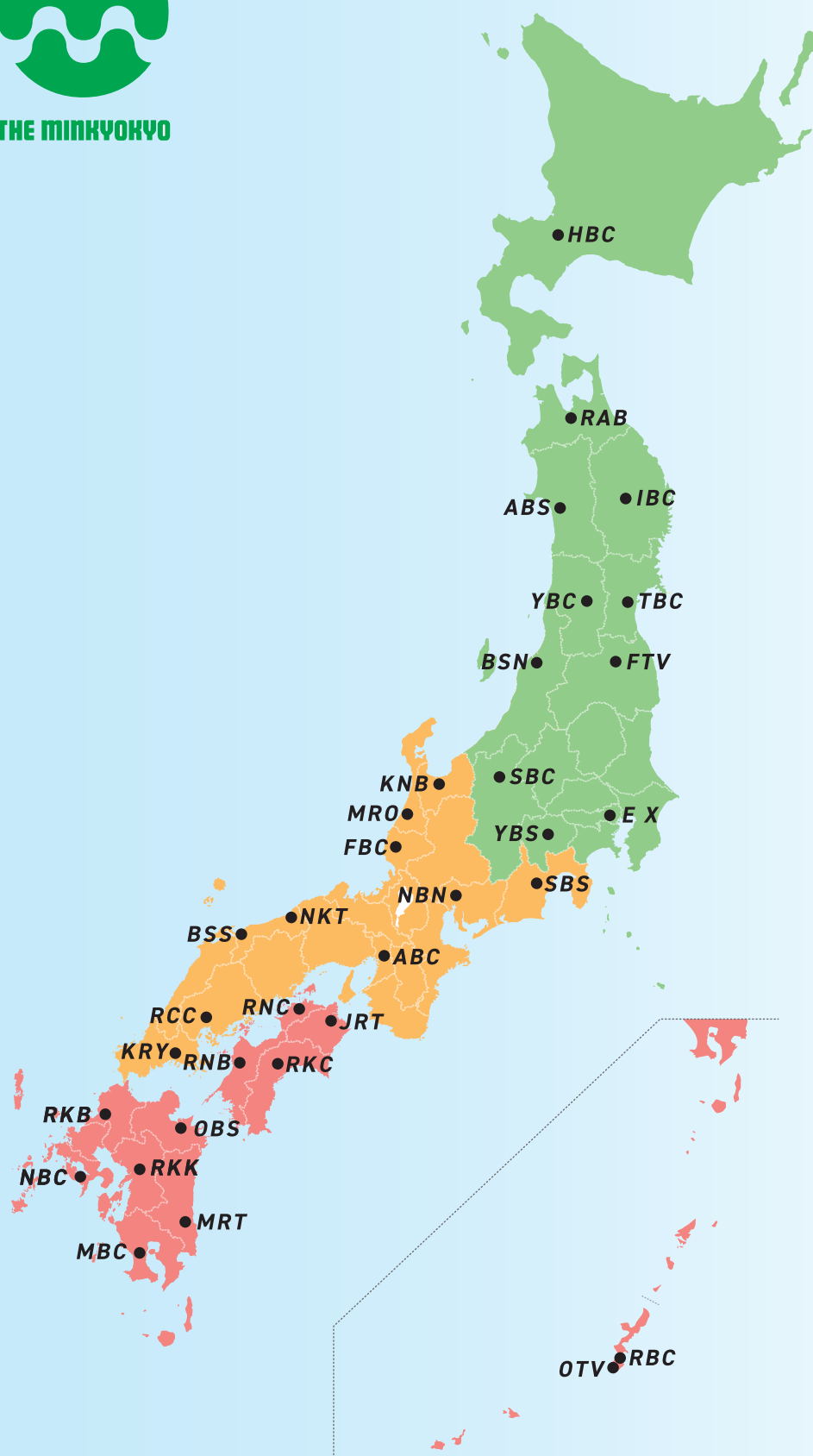


THE MINKYO KYO

民教協ネットワーク

民間放送教育協会
加盟33社

全国33局ネット



北海道・東北・ 関東・甲信越地区

北海道放送	HBC
青森放送	RAB
IBC岩手放送	IBC
秋田放送	ABS
山形放送	YBC
東北放送	TBC
福島テレビ	FTV
新潟放送	BSN
信越放送	SBC
山梨放送	YBS
テレビ朝日	EX

中部・北陸・ 関西・中国地区

北日本放送	KNB
北陸放送	MRO
福井放送	FBC
静岡放送	SBS
メ〜テレ	NBN
朝日放送テレビ	ABC
日本海テレビ	NKT
山陰放送	BSS
中国放送	RCC
山口放送	KRY

四国・九州・ 沖縄地区

西日本放送	RNC
四国放送	JRT
南海放送	RNB
高知放送	RKC
RKB毎日放送	RKB
長崎放送	NBC
大分放送	OBS
熊本放送	RKK
宮崎放送	MRT
南日本放送	MBC
沖縄テレビ放送	OTV
琉球放送	RBC

賛助会員

日本国際放送	JIB
--------	-----



<https://www.minkyō.or.jp/>



公益財団法人 民間放送教育協会
〒106-8001 東京都港区六本木 6-9-1
TEL : 03-6406-2171